



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099(226)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行人 末吉卓也 1部60円年間共1100円

道標

04年10月10日～05年10月29日 「聖体の年」 小教区が活性化し 教区が一つとなるように

典礼をもっと身近なものに

鹿兒島教区典礼委員会発足

この春、糸永司教の認可を受け「教区典礼委員会」(小川靖忠委員長)が発足した。同委員会は第二バチカン公會議が訴えた精神に則ったもので、教区民に典礼を身近に感じて欲しいとの狙いから設立された。【報告・小川靖忠】

歴史の新しい章

一九六五年五月十二日、第一バチカン公會議が閉会した。四年間にわたる期間で費やされた多くの犠牲と奉仕の上に「歴史の新しい章」が始まった。

公會議の成果の大きな一つとして「自由を教会の礎として、また人間の基本的な善として確立した」ことを挙げる事ができる。それまでの教会が主としてなしたことは新しい規則を公布することであつたが、世界は規則だけでは救われない。典礼を改革したり、諸宗教との対話を奨励したりすることは賢明なことであるとされた。

そして、各国で典礼の「自国語化」が始まった。今までになかった刷新である。しかし、刷新は、公會議において示された指針が、いかにして永続的に生かされるにかかっているといわざるを得ない。

教区典礼委員会発足

二〇〇五年四月十六日、糸永真一司教は「鹿兒島教区典礼委員会」の発足を認可した。わたしたちの教区で、微力ながらも「永続的に継続できる典礼に関する『目覚め』が始まったことを心から喜びたいと思う。司教は「教区内における典礼に関する教区民の意識高揚のために尽力して欲しい」と助言した。

美味しいイエズスさま

人間は食べたり飲んだりしなければ生きていけない。しかし、その裏でどれだけの動物、魚類、野菜たちの犠牲を前提としているか。それらは確かに美味い。だからまた食べたいと思う。わたしたちは、ミサの中でイエズスさまを食べる。イエズスさまの十字架の犠牲を前提としている。美味しく食べているか。また食べたいと思うか。食物は

心を込めて感謝のミサをささげる

レデンプトル宣教修道女会来日40周年



歌を披露する喜びの姉妹たち

レデンプトル宣教修道女会は、今年の五月、来日五十周年を迎え、その記念ミサが五月五日(木)、日

本地区本部(澤ヤエ子本部長)がある鹿兒島市唐湊の修道院でささげられた。司式したのは糸永司教とレデンプトル修道会、教区司祭合わせて十七人。説教の中で司教はこれまでの四十年間の奉仕に対する感謝を述べ、また、現

肉体にとって栄養となる。イエズスさまは「人間性」(真に生きる)にとつて大きな栄養となる。このような発想のもと、典礼をもっと身近なものとしていきたい。「典礼は教会の活動が目指す頂点であ

り、同時に教会のあらゆる力が流れ出る源泉である。他方、典礼自身は、復活の諸秘跡に満たされた信者が、「愛をもつて一つの心に結ばれる」よう励まし、「信仰によって知ったことを、生活において保つてゆく」よう祈る(「典礼憲章10番」)のである。典礼は、毎日の生活に

の典礼が「普通」にできるようになりたい。そのための奉仕を目指して今後尽力したいと考えている。

六月五日に小教区

典礼担当者の集い 現在の委員は以下の通り。(敬称略) 委員長 小川靖忠、委員 頭島 光、泉 浩二、末吉卓也(以上、司祭)、桃園淳一郎、迫 一夫(以上、信徒)。

新たな委員の参加を期待

待している委員会では来たる六月五日(日)に「各小教区典礼担当者の集い」を開催する。当日は午後二時から四時まで、教区本部棟二階会議室で小教区の現状が分かち合われる。

ミサを生き生きと

全司祭集会

五月十七日(火)、全司祭集会が教区本部で開かれた。議題は午前中は小教区における信徒奉仕者の養成について、午後は司教区昇格五十周年事業の一つである教会功労者表彰についての質疑応答、カトリック看護士協会鹿兒島支部の話。会議の冒頭、レオ七世

午後

の看護士協会の全国大会を鹿兒島ですることに、鹿兒島支部長の松村精子さんが、〇七年度のカトリック看護士協会の全国大会を鹿兒島ですることに、その実現のために鹿兒島教区内の医療・介護関係者の情報提供と同支部の今後の準備活動への理解を求めた。

第18回養成講座

きぼうの電話 鹿兒島きぼうの電話(河南徳子運営委員長)では、六月から十一月まで十八回目となる相談員養成講座を開催する。会場は一泊

カリキュラムの具体化を目指す

6月26日教会学校リーダー養成講座

教区カリキュラム委員会(末吉卓也委員長)は、四月十六日(土)鴨池教会で会合を持ち、来たる六月二十六日(日)、教区本部二階会議室で「教会学校リーダー養成講座」を開くことにした。この講座は従来のカテキスタ研修会に代わって開催されるもの。

糸永司教は〇五年一月十五日付「第二十一回教区評議會のまとめと勧告」の中で「教会学校の教師を含めたカテキスタの養成は危機にある教区の最優先の緊急課題である」としている。同委員会では、この課題に取り組むため、年に一度の開催から一学期に二回を目標に、リーダー養成講座を開催したいとしている。研修会の名称も、専門職の要理教師である「カテキス

教区財務委員会

五月八日(日)午後、教区本部で教区会計及び学生養成費の過年度決算、今年度の予算案を審議する教区財務委員会が開かれた。会の中で糸永司教は教区財政は決して楽ではないが、これまでやってこれたのは教区民の協力のおかげと感謝を述べ、また更なる協力を願いたいと語った。

「タ」ではなく、教会学校の現状を考慮し「教会学校リーダー養成講座」とすることにした。内容は、昨年作られた小学生のカリキュラムを具体的に実施するために役立つもの。 第一回の養成講座は次の通り。 日時 六月二十六日(日) 午後二時から午後四時半まで 場所 教区本部会議室 対象 教会学校のリーダーとリーダー候補者 内容 竹山師による講義の後、ミサ

# カインとアベル物語

## 聖書の人間理解 (7)

竹山 昭

「神なし」の自立の矛盾のうち生きる人間を兄弟関係

てそのまま受け取るしかあるまい。

の最も重要なポイントがあるというのである。「この話の中心は人類最初の兄弟殺人ということにあるのではなく、取り返しのつかない罪を犯してしまった人間が、いかにしてなお神の前に立ち得るのか」という問題にあります。その意味でカインは人類の代表であり、我々は「カインの末裔」であるという理解が成り立つと思えます。(前掲書)

「顔を伏せる」カイン  
新共同訳ではアベルを「弟」と表現するが、原語はただ「兄弟」を意味する言葉だといふ。その「兄弟」がおおよそ七回も用いられることは、強調点がそこにあることを思わせる。したがって最初の「兄弟間の殺人」物語といえなくもない。しかし、物語の眼目は果たしてそれに尽きるのだろうか。

「顔を伏せる」カイン  
「顔を伏せる」カインは、神からの問い掛けにもアベルの居場所を知らない嘘をつき、「おれは兄弟の番人なのか」とうそをつく。結局、土が呪われて産物を生み出さないことと、その土地からの追放を神から宣告されて、あまりにも重い罰で、堪え難いと嘆く。ここに至って、たとえ嘆きというすがたにおいてであっても、カインははじめて神と向かい合う。

カインのしるし  
ところで、追放されるカインにはしるしがつけられたと聖書はのべている(四・15)。かつてはそれは呪われた者のしるしであると考えられた。しかし、それは間違いである。なるほど、カインは兄弟アベルを殺したからこそ、このしるしをつけられた。したがってこのしるしの意味するものは、大鳥が言うように、ま

「顔を伏せる」カイン  
「顔を伏せる」カインは、神からの問い掛けにもアベルの居場所を知らない嘘をつき、「おれは兄弟の番人なのか」とうそをつく。結局、土が呪われて産物を生み出さないことと、その土地からの追放を神から宣告されて、あまりにも重い罰で、堪え難いと嘆く。ここに至って、たとえ嘆きというすがたにおいてであっても、カインははじめて神と向かい合う。

「顔を伏せる」カイン  
「顔を伏せる」カインは、神からの問い掛けにもアベルの居場所を知らない嘘をつき、「おれは兄弟の番人なのか」とうそをつく。結局、土が呪われて産物を生み出さないことと、その土地からの追放を神から宣告されて、あまりにも重い罰で、堪え難いと嘆く。ここに至って、たとえ嘆きというすがたにおいてであっても、カインははじめて神と向かい合う。

「顔を伏せる」カイン  
「顔を伏せる」カインは、神からの問い掛けにもアベルの居場所を知らない嘘をつき、「おれは兄弟の番人なのか」とうそをつく。結局、土が呪われて産物を生み出さないことと、その土地からの追放を神から宣告されて、あまりにも重い罰で、堪え難いと嘆く。ここに至って、たとえ嘆きというすがたにおいてであっても、カインははじめて神と向かい合う。

「顔を伏せる」カイン  
「顔を伏せる」カインは、神からの問い掛けにもアベルの居場所を知らない嘘をつき、「おれは兄弟の番人なのか」とうそをつく。結局、土が呪われて産物を生み出さないことと、その土地からの追放を神から宣告されて、あまりにも重い罰で、堪え難いと嘆く。ここに至って、たとえ嘆きというすがたにおいてであっても、カインははじめて神と向かい合う。

「顔を伏せる」カイン  
「顔を伏せる」カインは、神からの問い掛けにもアベルの居場所を知らない嘘をつき、「おれは兄弟の番人なのか」とうそをつく。結局、土が呪われて産物を生み出さないことと、その土地からの追放を神から宣告されて、あまりにも重い罰で、堪え難いと嘆く。ここに至って、たとえ嘆きというすがたにおいてであっても、カインははじめて神と向かい合う。

「顔を伏せる」カイン  
「顔を伏せる」カインは、神からの問い掛けにもアベルの居場所を知らない嘘をつき、「おれは兄弟の番人なのか」とうそをつく。結局、土が呪われて産物を生み出さないことと、その土地からの追放を神から宣告されて、あまりにも重い罰で、堪え難いと嘆く。ここに至って、たとえ嘆きというすがたにおいてであっても、カインははじめて神と向かい合う。

「顔を伏せる」カイン  
「顔を伏せる」カインは、神からの問い掛けにもアベルの居場所を知らない嘘をつき、「おれは兄弟の番人なのか」とうそをつく。結局、土が呪われて産物を生み出さないことと、その土地からの追放を神から宣告されて、あまりにも重い罰で、堪え難いと嘆く。ここに至って、たとえ嘆きというすがたにおいてであっても、カインははじめて神と向かい合う。

「顔を伏せる」カイン  
「顔を伏せる」カインは、神からの問い掛けにもアベルの居場所を知らない嘘をつき、「おれは兄弟の番人なのか」とうそをつく。結局、土が呪われて産物を生み出さないことと、その土地からの追放を神から宣告されて、あまりにも重い罰で、堪え難いと嘆く。ここに至って、たとえ嘆きというすがたにおいてであっても、カインははじめて神と向かい合う。

「顔を伏せる」カイン  
「顔を伏せる」カインは、神からの問い掛けにもアベルの居場所を知らない嘘をつき、「おれは兄弟の番人なのか」とうそをつく。結局、土が呪われて産物を生み出さないことと、その土地からの追放を神から宣告されて、あまりにも重い罰で、堪え難いと嘆く。ここに至って、たとえ嘆きというすがたにおいてであっても、カインははじめて神と向かい合う。

「顔を伏せる」カイン  
「顔を伏せる」カインは、神からの問い掛けにもアベルの居場所を知らない嘘をつき、「おれは兄弟の番人なのか」とうそをつく。結局、土が呪われて産物を生み出さないことと、その土地からの追放を神から宣告されて、あまりにも重い罰で、堪え難いと嘆く。ここに至って、たとえ嘆きというすがたにおいてであっても、カインははじめて神と向かい合う。

「顔を伏せる」カイン  
「顔を伏せる」カインは、神からの問い掛けにもアベルの居場所を知らない嘘をつき、「おれは兄弟の番人なのか」とうそをつく。結局、土が呪われて産物を生み出さないことと、その土地からの追放を神から宣告されて、あまりにも重い罰で、堪え難いと嘆く。ここに至って、たとえ嘆きというすがたにおいてであっても、カインははじめて神と向かい合う。

「顔を伏せる」カイン  
「顔を伏せる」カインは、神からの問い掛けにもアベルの居場所を知らない嘘をつき、「おれは兄弟の番人なのか」とうそをつく。結局、土が呪われて産物を生み出さないことと、その土地からの追放を神から宣告されて、あまりにも重い罰で、堪え難いと嘆く。ここに至って、たとえ嘆きというすがたにおいてであっても、カインははじめて神と向かい合う。

「顔を伏せる」カイン  
「顔を伏せる」カインは、神からの問い掛けにもアベルの居場所を知らない嘘をつき、「おれは兄弟の番人なのか」とうそをつく。結局、土が呪われて産物を生み出さないことと、その土地からの追放を神から宣告されて、あまりにも重い罰で、堪え難いと嘆く。ここに至って、たとえ嘆きというすがたにおいてであっても、カインははじめて神と向かい合う。

「顔を伏せる」カイン  
「顔を伏せる」カインは、神からの問い掛けにもアベルの居場所を知らない嘘をつき、「おれは兄弟の番人なのか」とうそをつく。結局、土が呪われて産物を生み出さないことと、その土地からの追放を神から宣告されて、あまりにも重い罰で、堪え難いと嘆く。ここに至って、たとえ嘆きというすがたにおいてであっても、カインははじめて神と向かい合う。

「顔を伏せる」カイン  
「顔を伏せる」カインは、神からの問い掛けにもアベルの居場所を知らない嘘をつき、「おれは兄弟の番人なのか」とうそをつく。結局、土が呪われて産物を生み出さないことと、その土地からの追放を神から宣告されて、あまりにも重い罰で、堪え難いと嘆く。ここに至って、たとえ嘆きというすがたにおいてであっても、カインははじめて神と向かい合う。

「顔を伏せる」カイン  
「顔を伏せる」カインは、神からの問い掛けにもアベルの居場所を知らない嘘をつき、「おれは兄弟の番人なのか」とうそをつく。結局、土が呪われて産物を生み出さないことと、その土地からの追放を神から宣告されて、あまりにも重い罰で、堪え難いと嘆く。ここに至って、たとえ嘆きというすがたにおいてであっても、カインははじめて神と向かい合う。

「顔を伏せる」カイン  
「顔を伏せる」カインは、神からの問い掛けにもアベルの居場所を知らない嘘をつき、「おれは兄弟の番人なのか」とうそをつく。結局、土が呪われて産物を生み出さないことと、その土地からの追放を神から宣告されて、あまりにも重い罰で、堪え難いと嘆く。ここに至って、たとえ嘆きというすがたにおいてであっても、カインははじめて神と向かい合う。

「顔を伏せる」カイン  
「顔を伏せる」カインは、神からの問い掛けにもアベルの居場所を知らない嘘をつき、「おれは兄弟の番人なのか」とうそをつく。結局、土が呪われて産物を生み出さないことと、その土地からの追放を神から宣告されて、あまりにも重い罰で、堪え難いと嘆く。ここに至って、たとえ嘆きというすがたにおいてであっても、カインははじめて神と向かい合う。

「顔を伏せる」カイン  
「顔を伏せる」カインは、神からの問い掛けにもアベルの居場所を知らない嘘をつき、「おれは兄弟の番人なのか」とうそをつく。結局、土が呪われて産物を生み出さないことと、その土地からの追放を神から宣告されて、あまりにも重い罰で、堪え難いと嘆く。ここに至って、たとえ嘆きというすがたにおいてであっても、カインははじめて神と向かい合う。

「顔を伏せる」カイン  
「顔を伏せる」カインは、神からの問い掛けにもアベルの居場所を知らない嘘をつき、「おれは兄弟の番人なのか」とうそをつく。結局、土が呪われて産物を生み出さないことと、その土地からの追放を神から宣告されて、あまりにも重い罰で、堪え難いと嘆く。ここに至って、たとえ嘆きというすがたにおいてであっても、カインははじめて神と向かい合う。

「顔を伏せる」カイン  
「顔を伏せる」カインは、神からの問い掛けにもアベルの居場所を知らない嘘をつき、「おれは兄弟の番人なのか」とうそをつく。結局、土が呪われて産物を生み出さないことと、その土地からの追放を神から宣告されて、あまりにも重い罰で、堪え難いと嘆く。ここに至って、たとえ嘆きというすがたにおいてであっても、カインははじめて神と向かい合う。

「顔を伏せる」カイン  
「顔を伏せる」カインは、神からの問い掛けにもアベルの居場所を知らない嘘をつき、「おれは兄弟の番人なのか」とうそをつく。結局、土が呪われて産物を生み出さないことと、その土地からの追放を神から宣告されて、あまりにも重い罰で、堪え難いと嘆く。ここに至って、たとえ嘆きというすがたにおいてであっても、カインははじめて神と向かい合う。

「顔を伏せる」カイン  
「顔を伏せる」カインは、神からの問い掛けにもアベルの居場所を知らない嘘をつき、「おれは兄弟の番人なのか」とうそをつく。結局、土が呪われて産物を生み出さないことと、その土地からの追放を神から宣告されて、あまりにも重い罰で、堪え難いと嘆く。ここに至って、たとえ嘆きというすがたにおいてであっても、カインははじめて神と向かい合う。

「顔を伏せる」カイン  
「顔を伏せる」カインは、神からの問い掛けにもアベルの居場所を知らない嘘をつき、「おれは兄弟の番人なのか」とうそをつく。結局、土が呪われて産物を生み出さないことと、その土地からの追放を神から宣告されて、あまりにも重い罰で、堪え難いと嘆く。ここに至って、たとえ嘆きというすがたにおいてであっても、カインははじめて神と向かい合う。

「顔を伏せる」カイン  
「顔を伏せる」カインは、神からの問い掛けにもアベルの居場所を知らない嘘をつき、「おれは兄弟の番人なのか」とうそをつく。結局、土が呪われて産物を生み出さないことと、その土地からの追放を神から宣告されて、あまりにも重い罰で、堪え難いと嘆く。ここに至って、たとえ嘆きというすがたにおいてであっても、カインははじめて神と向かい合う。

「顔を伏せる」カイン  
「顔を伏せる」カインは、神からの問い掛けにもアベルの居場所を知らない嘘をつき、「おれは兄弟の番人なのか」とうそをつく。結局、土が呪われて産物を生み出さないことと、その土地からの追放を神から宣告されて、あまりにも重い罰で、堪え難いと嘆く。ここに至って、たとえ嘆きというすがたにおいてであっても、カインははじめて神と向かい合う。

「顔を伏せる」カイン  
「顔を伏せる」カインは、神からの問い掛けにもアベルの居場所を知らない嘘をつき、「おれは兄弟の番人なのか」とうそをつく。結局、土が呪われて産物を生み出さないことと、その土地からの追放を神から宣告されて、あまりにも重い罰で、堪え難いと嘆く。ここに至って、たとえ嘆きというすがたにおいてであっても、カインははじめて神と向かい合う。

教会は生きています。  
それはキリストがまことに復活されたからです。故教皇ヨハネ・パウロ二世は一九七八年十月二十二日、ここサン・ピエトロ広場で職務を開始するにあたり「恐れないでキリストを迎えるために大きく扉を開いて下さい」と世の権力者たちに訴えられました。

そしてヨハネ・パウロ二世教皇はすべての人、特に若者に向かってキリストを迎えることの意義を教えられました。それは人生の扉はキリストとの友情のうちのみ開かれていくということでした。

そこで私もあらためて言います。キリストを恐れなくて下さい。キリストは何も奪ったりしません。キリストはあなた方にすべてのものを下さいます。私たちが自分自身をキリストにささげるとき、その百倍を返して下さい。キリストに向かつて大きく扉を開いて下さい。そうすれば真のいのちを見出すことができるでしょう。アーメン。

【資料】ドン・ボスコ社「カトリック生活」(六月号)

### 教皇ベネディクト16世

就任ミサの説教(要旨) —4月24日—

### 「教会は生きています」

「教会は生きています」

「十字架の使徒会祈りの意向」 小教区の活性化

## 6月

### 「十字架の使徒会祈りの意向」 小教区の活性化

3日(金) イエスのみ心  
5日(日) 年間第十主日  
12日(日) 年間第十一主日

▼古田町教会聖体永久礼拝  
▼本土地区班長研修会  
▼古仁屋教会聖体永久礼拝  
▼年間第十二主日

▼喜界島教会献堂(一九八二年)  
▼エルネスト・カスグレン神父命日(フランス)  
▼スコ会(一九七九年)

20日(月) レデンブートル会例会  
24日(金) 洗礼者聖ヨハネの誕生  
▼小川靖忠神父霊名

25日(土) 山口重義神父叙階記念日(一九七二年)  
26日(日) 年間第十三主日  
聖ペトロ使徒座への献金

教皇は毎年、世界各地を訪問し、人々の苦しみや悩みを聞き、優しい笑顔で力づけ、数々の援助を与えてきました。キリストの代理者、教会の最高牧者である教皇は、祈りと具体的な援助を通して全世界の人々にいつも心を注いでいるのです。この教皇に心を合わせて、わたしたちも世界中の苦しんでいる人々のために祈りと献金をささげます。教皇のこうした活動のために充てられる聖ペトロ使徒座への献金は、八世紀頃イギリスで始まった、大人も子供もいっしょに小さなお金である「ペニー」を毎年教皇に献金する献金がもとになって世界中に広まったものです。

▼教会学校リーダー養成講座  
▼瀬留教会聖体永久礼拝

27日(月) 教区司祭会  
28日(火) コンベントゥス・教区本部・10時  
29日(水) 聖ペトロ 聖パウロ使徒

霊名の祝い【聖パウロ】  
糸永真一司教、有馬信茂神父、郡山健次郎神父、小隈憲士神父

霊名の祝い【聖ペトロ】  
瀧 憲志神父、竹山 昭神父、永山幸弘神父、美島春雄神父

▼ムイベルガ神父叙階記念日(一九六九年)

### <KABAYAN SEKSIYON>

#### "Huwag mong gamitin sa mali ang Pangalan ni Yaweng-Iyong Dios"

Ang pangalawang utos: "Huwag mong gamitin sa mali ang pangalan ni Yaweng-Iyong Dios." Nasusulat sa Banal na Kasulatan: Narinig na rin ninyo na sinabi sa inyong mga ninuno: "Huwag kang sisira sa iyong sinumpaang... ngunit sinasabi ko naman sa inyo: huwag kayong manumpa. Sa pangalawang utos sinasabi na Sagrado ang Pangalan ng Panginoon, kung kaya kailangan igalang ang Pangalan ng Panginoon. Hindi dapat abusin ng tao ang pangalan ng Panginoon. Kailangan ilagay sa isipan ng tao ang pagsamba na may pagmamahal sa ngalan ng Diyos. Hindi dapat gamitin ng tao sa sarili niyang pagsasalita, kundi sa pagpuri at pagluwalhati sa ngalan ng Diyos.

Ipinagbabawal ng Pangalawang utos ang pag-abuso sa pangalan ng Diyos: halimbawa, ang hindi tamang paggamit ng pangalan ng Diyos, Jesukristo at saka ang pangalan ni Birhen Maria at saka ng lahat ng mga santos at santas. Ang pagsumpa sa ngalan ng Diyos ay kabaligtaran sa pangalawang utos. Dahil ang pagsumpa sa ngalan ng Diyos ay nagpapakita na laban sa Diyos-panloob o panlabas man-salitang pagkapoot, pagsisisi o pagsasalita ng masakit sa Diyos na nawawalan ng paggalang sa Kanya dahil sa maling paggamit. Kaya ang pagsumpa ay kontra sa pagbigay galang sa Diyos at sa kanyang banal na Pangalan. Ito'y malaking kasalan.

Ipinagbabawal din ang maling panunumpa. Dahil sa panunumpa ay ginagamit ang Diyos bilang saksi sa isang bagay na pinagusapan. Kailangan sabihin ng may maka-Dios na katotohanan ng isang taong nangangako. Sa panunumpa ay kasama ang pangalan ng Panginoon: "Magkaroon ka ng pitagan kay Yaweng Iyong Dios, paglingkuran siya at gamitin ang kanyang Pangalan sa iyong panunumpa." (Dt 6:13). Sa binyag ang kristiyano ay tumatanggap ng pangalan sa Simbahan. Kaya kailangan tingnan ng mabuti ng magulang, padrino/na at ng pari ang ibibigay na kristiyanong pangalan. Ang pangalan ng mga santo ay nagbibigay halimbawa ng kawanggawa at ng katiyakan ng kanilang dasal.

# 祭器具等について学習

## 男子対象に侍者の集い開催

四月二十九日(金)から三十日(土)まで、唐湊の研修の家で侍者を担当している男子を対象に初めての試みとして「侍者の集い」が開かれた。

これは、ローマの意向に沿って永司教が今年四月と十月を召命祈願月と定めたことを受けて試みられたもの。

参加者は、始良教会、枕崎教会、鴨教会池、ザビエル教会、志布志教会からの小学一年から中学二年までの十五人。

初日は、ミサについてのビデオと講話、祭服や祭器具の名前や意味、香炉の渡し方、ろうそくの火のつけ方などを学びんだ。二日

目は鴨池教会で実習。参加者した子供たちは自由

時間は手作りのボールで野球をしたり、夕食は保護者の協力でバーベキューをして交わりを深めた。初対面の子どもたちもいたが、先輩格の中学生がよく後輩の面倒をみていた。

## 駐車場利用について

### ザビエル教会

カテドラル敷地の内、駐車場は、ザビエル教会以外の信者にも普段利用されている。そうした利用者の中から献金箱があれば利用しやすいとの要望が以前から出ていた。ザビエル教会は四月の司牧評議会でも利用しやすいあり方として次のようにお願いすることに

- ① 駐車献金の希望者のためにザビエル書院に「駐車献金箱」を置く。
- ② 自転車は、小聖堂周辺ではなく、聖堂後方の自転車置き場に置く。
- ③ 普段の車の駐車は、中央を空けて、右端から左端に寄せる。
- ④ 入口、出口の指示を守る。
- ⑤ 車の中にザビエル教会一階ロビーにある駐車票を置く。

## 青年会が発足

### 鴨池教会

鹿兒島大学キャンパスに近い鴨池教会(主任司祭・泉浩「神父」)では、小教区活性化のための手段の一つとして今年四月に青年会を発足させた。

以前から青年の姿は見受けられたという鴨池教会だが、この青年会の立ち上げによって毎月第二日曜日のミサの後に十人程の若者が集まるようになった。泉神父は「まだ集まり始めたばかりだが教会の雰囲気慣れたい。青年同士ももちろんそうだが、壮年やその他の信徒とのつながりを強めて、教会共同体の生活に溶け込んでいってほしい」と期待を寄せている。

青年の一人、勝貴子さんは「一人ひとりが伸び伸びと活動してお互いに分かち合い協力できるような関係が築ける会になれば」と語った。鴨池教会は聖母幼稚園を持つばかりでなく、鹿兒島大学の近くという立地や若い主任司祭が担当するという子供や若い世代に関わりやすい条件が揃っている。九月に迎える終身助祭の叙階(桃蘭淳一郎氏)や、これらを活かした今後の小教区の活性化に期待したい。

## WYD準備会

今年の八月九日から二十四日までのワールドユースデー(WYD)ケルン大会日本巡礼団の参加者は全国から約三百人になる見込みで、各地で大会に向けてさまざまな準備が行われている。

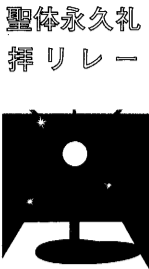
鹿兒島教区からも司祭

(石田望神父)一人を含む九人の参加が予定されており、五月十七日「WYDケルン大会準備会」が教区本部で開かれた。今回はWYD参加者のみに呼びかけられた準備会で、WYD参加者と青少年担当司祭(泉浩二神父)・末吉卓也神父ら九人が出席し、大会の日程の説明やテーマについて分かち合いをした。また、WYDへの参加の理由等のアンケートもとられた。

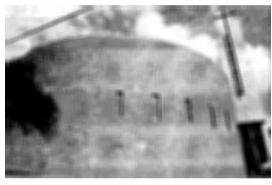
分かち合いの中で、同じ目的に向かい世界中から多くの若者が集まるWYDや同じ信仰のもとに集まる教会共同体のことが話され、「日本の社会ではキリスト教は少数派で、宗教自体が怪訝な目で見られるが、同じ信仰のもとにいる仲間がいる事に気付くと力づけられる。WYDに期待している」という声が聞かれた。

昨年十一月に開かれた教区評議会で教区に提言された一つ「WYDへ若者を送り出す」が実現に向けて準備を進められている。司祭・修道者・信徒の協力で参加者が現れ、目に見えない祈りが多くなされていると思われ、少しずつではあるが寄付金も寄せられた。参加者たちがよりよい準備をし、WYDで多くのものを得て、それを今後の教会に活かすことができるように祈りを込めて教区を挙げて送り出したい。今後、より一層のご協力をお願いしたい。WYD参加者は以下の九人(敬称略)。

石田望神父、向井伸志(母間)、ジェームス・トーマス・博・リスゴ、福留利尚(志布志)、前田慧、小郷重紀子(ザビエル)、勝貴子、新福紫乃(鴨池)、久保泉(川内)。



を務めることになった瀧憲志神父(七十四歳)は喜界島出身。助任の浜田盛茂神父(七十一歳)も嘉渡の出という地元出身の二人のコンビでこの四月から宣教司牧に奮闘している。



し、地元の人からは「マリア教会」の愛称で親しまれている。

班ごとに担当

古仁屋教会

## 聖体永久礼拝

5日(日) 10時~15時

聖体永久礼拝 奄美宣教の礎を築いたフランシスカン兄弟会のしんがり・コンベンツアル聖フランシスコ修道会の奄美修道院がある古田町教会(信徒数七九二)。西仲勝、小湊、喜界島を巡回教会として

八年ぶりにイタリヤはアシジから戻って主任司祭

教会の歴史は一九五八年七月にあった百人の集団洗礼に端を発する。

レンガ調のモダンな現聖堂は同会の奄美宣教五十年(二〇〇三年)を機に献堂されたもの。天地の元后聖マリアを保護の聖人に

人口約一万人という瀬戸内町は奄美大島の南西部に位置し、大島では名瀬市に次ぐ大きな町。

その中心・古仁屋にあるのが古仁屋教会(信徒数



## 平土野に教会を

### 母間教会

一九七、主任司祭柳本繁春神父・七十歳。

現聖堂は、一九五八年の古仁屋大火で司祭館と仮聖堂を失ったのを受けて、一九六七年に建てられたもの。保護の聖人は聖ジョルジオ。

教会隣には幼きイエズス会が経営する信愛幼稚園、近くには柳本神父が園長を務める特別養護老人ホーム「奄美の園」がある。

住用村の山間教会、対岸の加計呂麻島にある西阿室教会が巡回教会となつている。聖体礼拝の日は奄美女性連盟総会と重なっているが、多くの参加を呼びかけ班ごとに担当し、聖体賛美式で締めくくられる。

## 聖体永久礼拝

19日(日) 島内巡礼

徳之島の宣教は一九〇二年パリ外国宣教会のフエリエ神父によって始まり、現在は島内に十の教会が点在する。信徒数四九四。司祭が在任しているのは母間教会で、若い二人のレズンブートル会司祭(主任・福崎英雄神父、助任・石田望神父)が、鹿兒島教区で最も高齢化の進む地区での宣教に取り組んでいる。徳之島の今年の目標は「聖体のうちに一致と

## 宣教

その徳之島地区の聖体永久礼拝は恒例の「島内巡礼」の日。

聖堂建設資金作りに尽力中の平土野教会(天城町)がその目的。情報ではようやく目標額の四〇%にたどり着いたという。「できることなら今年度中の着工を実現させたい」と語る福崎神父は「亡くなる人が多い高齢化の進む徳之島の教会建設は、最近やっとなってきた子供たちのため」と語り、より一層の資金協力をお願いしたいと語った。

## 小教区目標実現へ

### 瀬留教会

当初予定されていた和泊教会(沖永良部)に代わつてこの日に聖体礼拝を担当することになった瀬留小教区(主任司祭・寝占教之神父。信徒数四二八。一八九四年にフエリエ神父とハルブ神父によって宣教が始められた。

現聖堂は一九〇八年に建てられたものを一九八七年に改築したもので、聖ヨセフを保護の聖人としている。聖体永久礼拝にあたって

瀬留小教区では通常、小教区内の七教会で五回さげている主日のミサを瀬留教会の一回だけに集中させることにした。この日は小教区内の信者が参列する午前九時からのミサ後、聖体を顕示し礼拝、午前十一時から九時のベネディクションで締めくくりにしている。

聖体礼拝の前に寝占神父は「小教区中の信者が集うこのミサで今年の小教区目標「祈り」として



「祈り」として実現のために心を合わせた」としている。

## 郡山神父と行くルルド・ローマ・アシジ9日間

日程：8月22日(月)~30日(火) 同行：郡山健次郎神父(志布志教会)  
巡礼地：ルルド・ローマ・アシジ 費用：438,000円(成田発着料金)

※日程詳細・申込方法については下記までお問い合わせ下さい。  
(株)グローバルユースビューロー鹿兒島支店

☎099-222-2175 ☎099-223-1757



# タイボランテアに行つて

長崎コレジオ三年 蘓畑広仁

春休みに初めて参加した「海外ボランテア」海外が初めてだったので、好奇心や不安などいろいろな感情がありました。一番不安だったのは、現地の人とコミュニケーションがとれるかということでした。

ボランテア先のメロン村ではタイ語は話せる人



村人と一緒に記念撮影

はいませんが、パガニオンというカレン族の言葉が使われています。それで、英語もあまり話せない自分が、現地の言葉がわからないので、コミュニケーションがとれないのではないかと思っていました。しかし、いざ現地のメロン村に行つて、ホームステイしてみると、宿

建設のお手伝いでした。教会の建設場へ行くと、鉄筋の骨組みが出来上がっていました。私たちが行った作業は、コンクリートを作るために、砂利や土、石灰を混ぜて、鉄筋に型をとった木の枠に流し込む作業や丸太を運ぶ作業でした。また、いろいろな村を訪ねて、ミサなどを行いました。

村の人は、一年に一度ミサがあるかないかで、ある村では三年間ミサがないところもありました。村の人は喜んでミサにあずかり、私はミサのお手伝いなどを通して、一緒にミサにあずかれました。嬉しかったです。

六十の坂を越えて「神と人とに仕える道を探りたい」とフィリピンへと旅立った泉さん。本部に寄せられた彼の手紙から紹介する。

## フィリピンへ派遣されて

大熊小教区・浦上教会 泉 純孝

か月の研修を終えた後、鍼灸師としてフィリピンに派遣されるも三ヶ月が経ちました。

発展途上国への使命を感じて信徒宣教師養成所の門を叩きました。そして七

## 文芸

### 俳句 (思川俳句会作品)

名瀬 松畑義弘  
子供等の日照雨にぬれし夏帽子  
夕風や太公望の頭寄せあひ  
(評) 「夏帽子」も「夕風や」も捨難い  
佳句

鹿兒島 春山マリ子  
外灯にうかぶ夜桜淡き白  
出水 遠竹睦郎  
茶摘みする老いら夫婦は睦じき  
純心学園 山頭信子  
花吹雪吹き寄せ揃う生徒かな  
鹿兒島 徳永ノブ子

かにかくに主に見守られ夏に入る  
阿久根 中津濱フサエ  
母の日やカーネーションの花ざかり  
(評) 「花ざかり」の写生がよい。

### 短歌 (思川短歌会作品)

鹿兒島 本城 愛  
新茶もむ孫の指先紅もみじ  
鹿兒島 龍門司真人  
渡し船篠突く雨に押されゆく  
(評) 四句の「紅美しく」の主観が愛しく孫より届く  
絵手紙のしだれ桜の花びらが紅美しく  
みを表白してよい。  
阿久根 中津濱フサエ  
次々におこる事件に心傷み主は栄光  
のうちに昇天す  
大口 森 博伸  
みこころに尋ねたいと思うことゆだ  
ねて今朝もあかりを灯す  
名瀬 林 明子  
父の愛今も忘れない広い海よせては

かえすいとおしき波  
(評) 「よせてはかえす」が深遠でよい。  
古仁屋 豊島忠司  
国教の民衆こそぞりてサンピエトロ寺院  
の鐘がローマに響く  
鹿兒島 春山マリ子  
レース編みつなぎ合はせる花柄に夢広が  
りぬ白き模様  
(評) つき離す「白き模様」がよい。  
出水 遠竹睦郎  
キリストの十字架の像持つつ今日も朝  
の祈りなしたり  
鹿兒島 前田儀子  
星を仰ぎつつ操るロザリオはじきはら  
からへの限りなき祈り  
鹿兒島 田平新太郎  
花過ぎて白々と枯れし都忘れ再び芽吹き  
小鉢を飾る

## 祈りと食と健康の集い

ライフスタイルを見直しませんか。6月17日(金)夕食(19時)~18日(土)昼食(13時) マリア山荘 会費:2,500円(宿泊代込み) 申込〆切:6月15日(水) 主催:ダニエルの会 申込:植村眞一郎(TEL.0995-43-3796) / 郡山健次郎(TEL.0994-72-0720)

## スピリチュアル研修会

「患者さん訪問」6月18日(土)14時~17時 / 19日(日)9時30分~16時 鹿兒島市民文化ホール第2会議室(5階) 研修費:6,000円 講師:W・キッペス神父(臨床パストラルケア研修センター所長) 申込先:奥村律子(☎099-282-2926) / 福沢智子(☎0997-566167)

## 黙想会

「イエスとの関係を深めて」講師:キッペス神父 7月9日(土)10時~10日(日)16時 マリア山荘 参加費:6,000円 申込:西TEL.0995-63-1943 / 宮地:TEL.099-262-4022

## ホテルと海賊

の近くにザビエルの名を冠した薬局もあつたような... 商業目的やその他、教会の思想とは違つていても、キリスト教の何らかを教会以外の人が社会に広める手助けをしてきている。クリスマスもそうだ。教会が利用されているのかもしれないが、こちらも大いに利用したい。

先日、鹿兒島市内を車で走っていると、隣に大きなバスが止まった。そり立つその車体には大きく「ザビエル」と書いてある。「教会も気合を入れた宣伝を...」と思つてよく見ると、市内にあるホテルの宣伝。「な〜んだ」とがっかりしながらも、「この広告を見た人が、フランススコ・ザビエルや、キリスト教の事を思い出すこともあるだろう。宣教の一部...?」と思つた。そういえばザビエル教会

。もちろん、酷い先住民支配の問題もあつたけど。でも、何を利用してでもキリストの光を伝えようとする宣教師の熱意が、本当にキリストを伝えてくれたのだと思う。なんといつても、ザビエルは海賊まで利用した。六月二十四日洗礼者聖ヨハネの祝日にマラッカからザビエルは日本に向けた航海に使つた船の船長は中国人の有名な「海賊アワン」だつたそう。



へえ、日本の教会は今こうなんだ... ザビエル

カトリック新聞は、日本のカトリック教会唯一の週刊全国紙です。全国、海外の購読者様のお手元へ毎週直送いたします。また、全国のサンパウロ・女子パウロ会書店でも販売しております。

## カトリック新聞

1部本体価格150円(税・送料別) 購読料金(前納、税・送料込) 半年4740円・1年9480円

見本紙贈呈いたします

〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館5階 カトリック新聞社 TEL 03-5632-4432 FAX 03-5632-7030 Email kodoku@cwjpn.com